

家へ江別浅井郡長野村の巷きよより。父ちは百姓長助ある者。這なまが二男  
ふ生うぶきよし。を八歳やにて登山か。剃髪受戒だいぱうじゅさい。法の号ごうを昌盛めいせいと称  
つる。學門深く顯密の法海ふ探入たんにゆ。事理一心の妙義を曉あく。  
智火ちかてり。煩惱ぼんのうを燒畫やきずさんとするに臨のぞむ昌盛めいせいふ大願だいがんを起おこす。  
一宗いちゆうを興立せんと奥義の分別立たてざければ。先哲の例たとふ憑よて神明佛院を  
祈ねらふ。如ごと直ただふ比數ひそくを差下さり。當國竹生鴻たけうへ系けい統とう。微妙天女めうび  
形態けいたいを深ふかす。日ひ解わかる。百日ひ際あいだ步行ぶこうを運うび。か不亂ふらんふ念ねんす  
色いろす。豈れ能め。章あらう。あうざうけ。ばつばつが微び公こうの清きよきふこと。一遭發紙はつしつる  
う。ハ命めいせりて天女めいふ歸きし。死死すとも所念ところねんを達たどせて罷やわき。もや百日ひも今  
輪わを限かり。と至いたかふ急いそと通夜つやか。曉あ近くうる候まわふ夢ゆめを現あらわす。牒と繩いと  
と殊ことの底そこの文字もじふ聞きき。香雲魏こうう韓はん。隣となりは燭嚴微しやくごん妙めうの神女しんじよ現あらわす  
御声涼ごゑりょう。若わたり。没ぼく今大願だいがんを起おこす。一宗いちゆうを興立たてし。と度幾どのと雖まも。  
世間名利の法ほうあり。妙覺内證めうきょうないぢょうの頼海らいかいふ補ほまず。徒たゞは勝劣かうれいを争あらわふの。衆  
衆生富度じゆじゆふどの法ほうあうだ。今世四海惱亂しふく。万乘まんじゆの皇こうより億兆えきじやうの民みんが至いたる。會あつく。陰鬱いんうの苦くふ端はん。無明長夜むみやうながよの闇くろふ育居いくも。然しかる。誰だか此こ苦くを救すくえん  
ぞ。其その輩はいは。今いまもあれ。四海しふくを統とう。一個の大將顯出だいじょうけんしゆ。上うへ帝王の御ご為ため。下しもへ  
万民まんみんのの。慈悲心じみの志しを勵はげす。只ただ顧かんよ天助てんすけの力ちからを震ふるひ。世よ上の亂らんを絶きりめ  
え。是これこそ菩薩六度ぼさつろくどの行おこふ勝まさ。一宗いちゆうを興立たてす。諸宗よしゆうと勝劣かうれいを争  
ふ。そとみへ其その功ごり大きう巨大だいう。実じつふ大班だいはんの頼らいふふ稱たんひ十地じゅうじの内うち逸いつく  
満足まんぞくす。孰な段だんが前因ぜんいんを考かる。出家しゆげ得道とくとうす。亦よ子孫ししゆは  
一人の大將軍だいじょうぐんを得とる所ところの果報かくほうあり。今いまより子孫ししゆを起おこすの術じゆを殺ころけ  
四海しふく一統いつとうせらるる。士しを求めんます。行おこ頼らいす。至いた信奉行しんぽうぎょうする時ときの大願だいがん